

道 徳

東 京 書 籍

教 育 出 版

光 村 図 書

日 本 文 教 出 版

学 研 教 育 み ら い

廣 濟 堂 あ か つ き

日 本 教 科 書

<div style="text-align: right;">発行者名</div> 採択基準	<div style="text-align: center;">東京書籍（新しい道徳）</div>
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教材において道徳的価値に触れた後、自己を振り返るような設問で今までの自分を見つめる学習ができるよう配慮されている。 ・ 物事を広い視野から多面的・多角的に考え、友と意見交換を行って、問題解決を図ることができるよう工夫されている。 ・ 様々な分野の人を教材として取り上げ、生き方について考える設問から自身の生き方を深められるよう工夫されている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等	<ol style="list-style-type: none"> (1) 重点項目として教材が複数載っているなど、生徒の発達段階に即して適切な話題や題材で学習ができるよう配慮されている。 (2) 色鮮やかな挿し絵や写真、漫画などの口語体の文章など、関心・意欲を喚起するよう工夫されている。 (3) 基本的な授業の流れや話し合いの仕方を学び、生徒が主体的・対話的な学習ができるよう工夫されている。 (4) 様々な立場の人の考えを想起する設問があり、多面的・多角的に考えられるよう十分に配慮されている。 (5) ユニバーサルデザインフォントを利用し、生徒の発達段階に応じよく配慮されている。 (6) 会話文や設問「考えてみよう！」の文は、文節での改行を行い、読み間違いが起きにくいよう配慮されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価	<ol style="list-style-type: none"> (1) 各学年、本編で35時間分の教材を用意し、更に付録で5教材を用意することで、学校や教室の実態に合わせて柔軟な指導ができるよう配慮されている。 (2) 教材ごとに教科関連マークを設定し、他教科の学習内容や学校行事の実施時期との関わりが考慮されており、主体的・対話的な学びの指導ができるよう配慮されている。 (3) 現代的な課題である「いじめ」や「いのち」について、複数教材を組み合わせた重点的な指導や、道徳的行為を体験的な学習を通して考えることができるよう配慮されている。 (4) 特に「感動、畏敬の念」のような大自然を扱う教材においては、写真が見開きで載っていて自然の雄大さを指導していくときに生かせるよう工夫されている。 (5) 各教材の中で設けられた「つぶやき」の欄や、巻末にある自己評価用紙から、生徒に自身の学びを実感させ教師が成長の様子を把握できるよう工夫されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権教育や進路学習、職場体験学習などの学年や学校の行事と関連付けたり、生徒の実態に応じたりして教科横断的に指導が進められるよう配慮されている。 ・ 写真やイラストを使った文章・漫画・新聞記事から、道徳的な価値を主体的に読み取り、体験的な学習活動や話し合い活動を通して多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。

<div style="text-align: right;">発行者名</div> 採択基準	<div style="text-align: center;">教育出版（とびだそう未来へ）</div>
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登場人物が判断を迫られる場面、道徳的価値の葛藤を考える活動が取り入れられ、道徳的価値に向き合えるよう工夫されている。 ・ 話合いやグループ追究の機会が随所に設定され、他者と対話し協働しながら多面的・多角的に考察できるよう配慮されている。 ・ 全ての授業の終末に、自分に引きつけて考える機会を取っており、自己の生き方についての深い理解が生まれるよう配慮されている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 〔 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 〕	<ol style="list-style-type: none"> (1) 道徳的価値の葛藤を多く含んだ身近な事象が発達段階に応じて取り上げられており、自分と重ねやすいよう配慮されている。 (2) イラスト・航空写真・漫画形式など、多様な形式の教材が配列されており、生徒の関心・意欲を喚起できるよう工夫されている。 (3) 役割演技を随所に取り入れ、生徒が日常の自身との関わりで理解を深め、主体的・対話的に学習ができるよう工夫されている。 (4) 登場人物が判断を迫られる教材が多く、適切な行為を多面的・多角的に考え実践しようとする意欲が育つよう配慮されている。 (5) 発達段階に合わせた分量になるよう配慮されている。また、ユニバーサルデザインフォントが使用されている。 (6) 見開きの写真や絵を提示したり、柔らかな色調にしたイラストがあったりと、内容理解を助けるよう配慮されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 〔 「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価 〕	<ol style="list-style-type: none"> (1) 同じ学級・人物が登場するシリーズ教材が全学年にわたって掲載されており、等身大の主人公の葛藤や成長からよりよい学校生活について考えられるよう配列されている。 (2) 巻頭に「道徳科で学びを深めるために」が設定され、生徒が主体的に、相互に関わりながら見方・考え方を深めていくモデルが示されており、年度の早い段階で指導できるよう配慮されている。 (3) 現代的課題である「いじめ」について、複数の教材のつながりを重視した重点的な指導や、発達段階に応じた教材による効果的な指導がなされるよう配慮されている。 (4) 人物の表情を細やかに表現し、さし絵や写真から人物の心情や気持ちの変化が想像しやすく、学習指導に生かせるよう工夫されている。 (5) 巻末に「道徳の学びを記録しよう」が設けられ、毎時間の記録や、学期末や年度末に心に残ったことなどを記入できるようになっており、生徒の学びや成長を把握できるよう工夫されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の自分はどうか、自分に寄せて考える発問を設け、議論していくことを通して、自分自身を深く理解し、人間としてのよりよい生き方について考えられるよう工夫されている。 ・ 登場人物が判断を迫られる場面といった、道徳的価値の葛藤を含んだ教材が多く配列され、自分ならどう行動するか生徒が自ら考え、対話を通して考えを深められるよう工夫されている。

<div style="text-align: right;">発行者名</div> 採択基準	 光村図書（きみが いちばん ひかるとき）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が目指そうとする姿を設定し、自己を見つめながらそれを具現化していけるよう端的な発問が工夫されている。 ・ 教材末に「考えよう」を設定して、生徒が友と話し合う中で多面的・多角的に考えてまとめやすいようよく工夫されている。 ・ 毎回の授業の記録を積み重ねて、生徒が自分の生き方への考えの深まりに気付くことができるよう工夫されている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 （本文、見出し、設問、 提示文等の表現、さし絵、写真、図表、 配色、フォント、コントラスト、レイアウト等）	(1) 生徒の成長や問題意識に寄り添った学びになるように、年間で3つの「シーズン」に分け、系統的な教材配列が配慮されている。 (2) 漫画やグラフ、ポスター、新聞記事などから読み取り、個々の考えを引き出して追究に結びつくよう十分に工夫されている。 (3) 主体的・対話的に学習できるよう「深めたいむ」というページを設け、自分に引き寄せて考えるようよく工夫されている。 (4) 役割演技を取り入れた活動を提案し、道徳的行為を多面的・多角的にとらえて話し合えるよう配慮されている。 (5) ユニバーサルデザインフォントを用いている。また、各教材を分類・色分けするなど細かな配慮がされている。 (6) 写真資料やさし絵、グラフなどが学習内容の理解を支援できるよう配慮されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い （「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価）	(1) 生徒の生活を意識したテーマについて、重点的に提案できるよう構成され、コラムを設けながら学年ごとの実態や発達段階に合わせた教材配列が工夫されている。 (2) 情報モラルについて、3年間を通して継続的に向き合い、現実的な場面設定や情報機器の良さにも目を向けながら、実態に応じて柔軟に指導できるよう配慮されている。 (3) 主体的な意見や自由な発想を促すためにめあてが記載されたり、多面的・多角的な見方・考え方ができるよう端的な問いが設けられたりするなど工夫されている。 (4) 教材ごとにQRコードを活用して、朗読や動画、資料などのデジタルコンテンツで、学びを深めたり広げたりできるよう配慮されている。 (5) 毎時間の授業の終末に、巻末の「学びの記録」シートで振り返りを記述しながら、足跡を記録して自己の学びの深まりに気付くことができるよう工夫されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「人権教育」「いじめ問題」「情報モラル」「命の尊さ」を年間通して向き合い、その道徳的価値の多様性の理解を深めることができる教材が工夫されている。 ・ 生徒自身が目指したいと願う姿を具体的にしながら、主体的な意見や自由な発想を通して、目標を具現化していけるような端的な発問が工夫されている。

発行者名 採択基準	日本文教出版（あすを生きる力）
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳的価値が教材の主題名として明示され、「考え、議論する」学習を通じて生徒が主体的に取り組めるよう配慮されている。 ・ 問題解決的な学習や話し合いなど、様々な学び方が写真で例示され、生徒が多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。 ・ 「自分にプラス1」の発問を設け、生徒が道徳的価値を理解し、自分の生き方について、考えを深められるよう配慮されている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> (1) 系統的・発展的に学習が進められるよう各学年のテーマを設定し、他教科等との関連や校種間との連携にも配慮されている。 (2) 身近な生活場面や著名な人物、漫画形式、全国各地の題材など、多岐にわたる教材で学習意欲を喚起できるよう工夫されている。 (3) 教材のねらいに迫る発問に加え、前向きに自分にいかすための発問が示され、生徒が主体的に学習できるよう工夫されている。 (4) 「いじめ」を重点テーマとし複数の教材とコラムでを組み、多面的・多角的に学習できるよう配慮されている。 (5) ユニバーサルデザインフォントを用いたり、補足説明をつけたりすることで読みの抵抗を少なくするよう配慮されている。 (6) 写真や図版を大きく鮮明にする等、ページ構成を工夫し、学習意欲を促すよう配慮されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 〔「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒が系統的・発展的に学習できるよう各学年のテーマを設定し、日常生活や学校生活、学校行事と関連させて考えられるよう、身近な教材や幅広いテーマが適切な時期に配列されている。 (2) 他教科の学習内容との関連、学校行事の実施時期などとの関係を考慮して教材が配列されているとともに、地域・家庭生活とのつながりでも授業が展開できるよう配慮されている。 (3) いじめを自分たちの問題として考えるために、いじめと向き合う教材を複数提示したり、体験的な学習などを組み合わせたりすることで、多面的・多角的に考えられるよう配慮されている。 (4) 写真やさし絵などの図版が鮮明で大きく配置され、参考画像や動画なども活用することにより、生徒が興味・関心をもてるよう工夫されている。 (5) 1教材1ページの道徳ノート(別冊)で、生徒が自分自身の学びの積み重ねを実感できるとともに、教師が生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握できるよう工夫されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学年で「いじめ」と「よりよい社会と私たち」について、重点的かつ継続的に学習できるように、教材とコラム、多様な学習形態を配置し、主体的に考えられるよう配慮されている。 ・ 道徳ノート(別冊)に友達の考えをメモする欄を設け、生徒が自らの成長を実感するとともに、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握できるよう工夫されている。

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p style="text-align: center;">学研教育みらい（新・中学生の道徳 明日への扉）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材に主題名が明示されないことで、多様な価値観で自己を見つめ、生徒が主体的に学べるよう配慮されている。 ・ 特設ページの「クローズアップ」などで関連情報や異なる視点を取り上げ、生徒が多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。 ・ 巻末の「学びの記録」を活用し、学期ごと振り返りを行うことで、自己の生き方について考えを深められるよう配慮されている。
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <p>（本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等）</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 学校生活に対応した教材配列により生徒の発達の段階に応じて学習が進むよう配慮されている。 (2) 地域に関連した内容や、いじめ防止など身近な課題を重点的に扱うことで、生徒の関心・意欲を喚起するよう工夫されている。 (3) 漫画やグラフなどの教材で自由な発想を促し、生活経験と道徳的価値を結びつけて主体的・対話的に学べるよう工夫されている。 (4) SDGs やキャリア教育について、生徒が多面的・多角的に考えられるよう全学年で重点的な指導の工夫がされている。 (5) ユニバーサルデザインフォントを採用し、文字は行間にゆとりをもって記述され、発達段階に応じて配慮されている。 (6) AB 版の教科書で行間にゆとりをもたせ、全ての資料が見開きから始まるなど、資料の把握がしやすいよう配慮されている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <p>（「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価）</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 学年ごと発達段階に応じた特定の内容項目に重点を置くことで、3年間を通じてよりよい生き方について深く学べるよう配列されている。 (2) 重点テーマに「命の教育」を中心に据え、3年間を通じて読み物教材以外にも多様な教材を配置することで、生徒の実態に応じて柔軟な指導計画が作成できるよう配慮されている。 (3) 全学年で東日本大震災に関する教材があり、現代的な課題に対する自分の思いや向き合い方を主体的に考え、友とともに対話的に考えを深められるよう配慮されている。 (4) 見開きで写真やグラフを提示し、教材と出会った生徒が自由な発想で授業に臨めるようにし、「問い」をもって学んでいけるよう工夫されている。 (5) 教科書にはメモ欄が設けられ、巻末の「学びの記録」は3学期分が用意されるなど、教科書だけで学習を進められるよう工夫されている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「深めよう」というトピックで主体的・対話的で深い学びの授業提案が示されており、全ての教師が教材の特長を存分に生かした学習ができるよう工夫されている。 ・ 主題名が明示されないこと、自己を見つめ、よりよい生き方を考えられる発問、現代的な課題を多面的・多角的に考えられる重点的な指導など、主体的に学習できるよう工夫されている。

発行者名 採択基準	廣濟堂あかつき「中学生の道徳」
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年間を通して、「自己」の探求をテーマとし、多様な発問事例や別冊を用いて、道徳的価値に焦点化されるよう工夫されている。 ・ 本冊、別冊ともに教材や資料を豊富に掲載し、様々なテーマや心の有り様を多面的・多角的に考え議論できるよう配慮されている。 ・ 別冊の内容項目毎の資料も用いて、1時間毎、学期毎、自由記述欄と多様な振り返りができるよう配慮されている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> (1) 教科学習との関連、日常生活でのトラブル、社会への参画など、学年の発達段階などに合わせて学習できるよう配慮されている。 (2) 漫画等様々な形態の教材を配置し、各教材には「偉人」の格言を掲載するなど、発展的学習が可能になるよう工夫されている。 (3) 本冊コラム「thinking」、別冊「道徳ノート」に補助的な教材が補完されており、より主体的に追究できるよう工夫されている。 (4) 教材末の「学習の手がかり」、「考える・話し合う」で道徳的価値への理解を促し、より総括的に考えられるよう配慮されている。 (5) 学年段階を考慮し、第1学年は本文の文字サイズを大きくしている。文字量や書き込みのスペース等も配慮されている。 (6) 本冊、別冊ともAB版であり誌面にゆとりがある。また、カラーユニバーサルデザインを用いて視覚的に配慮されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 〔「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> (1) 「自分」を「見つめ」「考え」「のばす」という方針の基、「自分自身に関すること」から学習を初め、行事等、様々な学習機会に応じた教材、思春期に関わる教材も配列されている。 (2) 別冊には、他教科や行事との関連が可能になるような調査活動や自己の振り返りのページ、資料が設けられ、教科横断的、探求的な学習ができるよう配慮されている。 (3) 「いじめ」「生命」「情報」をキーワードに、葛藤や逡巡が生まれるよう工夫された教材が配置され、環境問題等についても多面的・多角的に考えながら学習できるよう配慮されている。 (4) 他国の様子、自然環境の経年変化を比較した写真、直筆の回想録、生徒新聞等、写真や資料を用いてより効果的に情景や心情が伝わるよう工夫されている。 (5) 「学習の記録」では、柔軟に振り返りができるようにした上で、教材ごとに自己評価欄が設けられ、心に残った授業について3つを抽出しその理由が書けるようにも工夫されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権教育、人や生物の生死、障がいを乗り越える生き方、命の尊厳などについての教材が多く、葛藤や逡巡を通して教科横断的に学べるよう工夫されている。 ・ 別冊を併用し道徳的理解を深め、豊富な資料をもとに発展的な学習を行うとともに、自己を見つめる機会を増やすなど相乗効果をねらいとした工夫がされている。

<div style="text-align: right;">発行者名</div> 採択基準	<div style="text-align: center;">日本教科書（生き方から学ぶ）</div>
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教材で、内容理解を深める発問と、自己を振り返る発問が設定され、自己を見つめることにつながるよう配慮されている。 ・ 郷土教材、海外に係る教材をはじめ、身近な事例において様々な視点から、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。 ・ 1年間育んできたものを次年度に活かせるような振り返りを巻末に配置することで、考えを深める学習ができるよう配慮されている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 〔本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等〕	<ol style="list-style-type: none"> (1) 学年に応じた学校行事・生活に配慮した教材で編集され、発達段階や、興味関心に合わせて考えながら読めるよう配列されている。 (2) ネット社会やキャリア教育の教材を各学年に配置することにより、発達段階に合わせ学習することができるよう工夫されている。 (3) 授業の終末の、「話し合ってみよう」「聞いてみよう」の問いで、生徒が主体的に関わり合って学べるよう工夫されている。 (4) 様々な答えや考え方ができる教材を配置することで、議論や話し合いによって、多面的・多角的に考えられるよう配慮されている。 (5) 写真資料、さし絵を教材の適所に配置するにとどめるシンプルな紙面構成で、本文に集中できるよう配慮されている。 (6) 教材の下段に難しい言葉についての説明があり、内容を把握できるよう配慮されている。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い 〔「基礎的・基本的な知識・技能の習得」のための工夫、「思考力・判断力・表現力等の育成」のための工夫、「主体的に学習に取り組む態度を養う」ための工夫、関連性・連続性、個に応じた指導、他者との協働、まとめと評価〕	<ol style="list-style-type: none"> (1) 同じ人物が登場し、日常の生活の中で迷ったり成長したりしていく姿を描いた教材を各学年に配置することで、発達段階を考慮した教材配列がされている。 (2) 教師が書き下ろしたオリジナル教材を多数配置することで、生徒が主体的に取り組め、地域や生徒の実態に応じた教材で指導計画が作成できるよう配慮されている。 (3) オープンエンドの教材を配置することで、生徒の考えや議論から多様な価値観を導き出し、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。 (4) 教材の内容や特徴に合わせて、さし絵と写真を使い分けたり、さし絵の大きさを変えたりすることで、教材内容の状況把握や心情理解に生かせるよう工夫されている。 (5) 巻末に年間の心の成長と道徳の授業の振り返りが配置され、4段階で自己評価できる様式により、短時間で記入できるよう工夫されている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳的価値を自分ごととして捉え、多様な価値観と出会えるように、「人権」「福祉」「環境」「生命」「社会参画」等、様々な内容を扱った読み物教材が配置されている。 ・ 学習指導要領の内容項目順に教材が配置されており、地域や学校の特色や方針、カリキュラム・マネジメントによって、教材の順番を入れ替えて指導計画が作成できるよう配慮されている。